温泉資源を活用した豊かな暮らしと交流の拠点

01.「湯田らしさを」をつくる市民とそれを支える温浴施設

温泉情緒の衰弱と観光客の減少という課題の中、H 21 年にまちづくりガイドライン「おもてなし西の京」、H 27 年に観光回遊拠点施設「狐の足あと」が完成し、その後の多くの市民の活動によって、徐々に活気あふれる温泉街へと変化しています。一方、今後の持続可能な発展のためには、観光回遊だけではなく、移住・定住も含めた新たな人の流れを創出する必要があると考えます。私たちは本施設を、この変化の原動力となる市民の活動、さらには温泉資源を活用した健康で豊かな暮らしを支える「市民活動の促進・支援の場」とすることで、さらなる定住者・移住者、観光客の獲得に貢献し、地域活力の向上に繋げることができると考えています。

本計画地は、住宅エリア、公共サービスエリア、そして温泉エリアの3つの異なるエリアに隣接しています。この立地を最大限活用し、多世代多業種の市民、湯田温泉で活躍している方々、市の施設の運営者、また山口大学の学生など、多くの交流を生み出し、人々の活動から生まれる新しい「湯田らしさ」の創出を目指します。

「湯田らしさ」の 3 つの方向性

湯田ライフスタイル
- 常に温泉ともにある生活 -

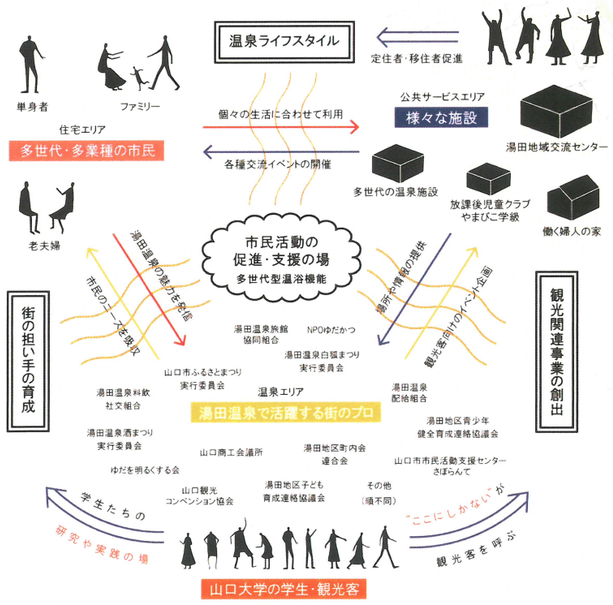
読書、映画、食事など、何かをしながら足湯（ナガラ足湯）や、赤ちゃんでも一緒に入れるお風呂など、独自の温泉の魅力が生まれることで県内外からの定住者・移住者促進につながります。

観光関連事業の創出
- やってみよう！をやれる環境 -

温泉を活用した実験的なイベントや商品開発など、市民や地域の様々な団体が自由にチャレンジできることで、街に活気と魅力を与え、将来的な観光客増加やビジネスチャンスにつながります。

街の担い手の育成
- 人も街も共に成長する -

同じ街に住んでいても、世代や職業で魅力と感じる部分はそれぞれです。それらを皆で共有すると、もっと街が好きになる。そしてもっといい街にしたくなる。人の成長が街の成長につながります。



04. 点在する木陰と縁側がつくる居心地のいい屋外空間

施設全体に点在するように木陰をつくります。隣接する機能に合わせ、外構デザインを細やかに変える ことで、多様な空間をつくりだします。また、山口の文化の基礎となった 大内文化を継承 し、市内の寺社建築等にみられる、路地、縁側、庭 の手法を計画に用いることで、建物外周部に人がたたずむ 居心地の良い空間 をつくります。これらは、室内の活動がより外部へ広がり、視覚的な交流のきっかけとなります。

同時に敷地内にはお祭りやイベントの開催や、現在地域交流センターで行われている 各種イベントや講座を行える広場 を設けることで、市民の活動の幅を屋外へと広げます。

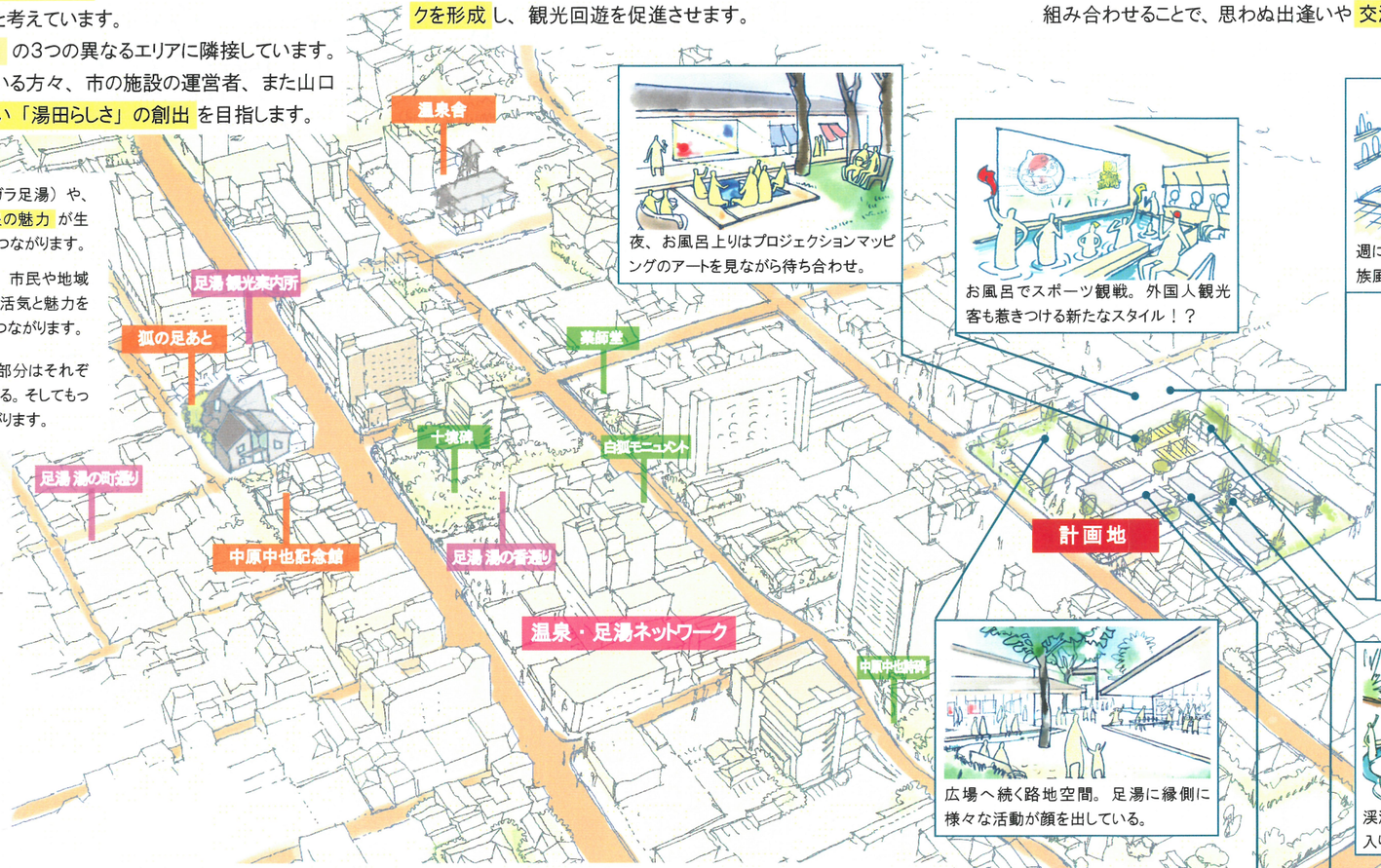
02. 足湯文化を活かした施設づくりとネットワーク

湯田の街には地域特有の文化の一つである足湯が複数点在しており、若者からお年寄りまで日常的に利用されています。狐の足あとでは、足湯と他のプログラムを組み合わせることで、効果的に人々の交流を促しました。私たちはこの足湯の持つコミュニティづくりの力を本施設でも有効に活用できると考えています。さらに本施設を北の拠点 と位置づけ、狐の足あと、温泉街とともに 足湯ネットワークを形成 し、観光回遊を促進させます。

03. ごちゃまぜが生み出す交流の仕掛け

メインの温浴施設となるお風呂は、市民の生活向上を目的とし、周辺の温泉旅館のもつ温浴施設との棲み分け をはっきり行います。赤ちゃんからお年寄りまで、3 世代にわたり気軽に利用できるお風呂をつくります。

また本施設は温浴機能と共に、カフェ、託児所、図書室、和室、スタジオ、ラボなど市民や様々な団体、市等のニーズを満たす 多機能型施設 にすべきと考えます。さらにそれらの機能を ごちゃまぜに配置 したり、足湯 を組み合わせることで、思わぬ出逢いや 交流を生み出す仕掛け をつくります。



夜、お風呂上りはプロジェクションマッピングのアートを見ながら待ち合わせ。

お風呂でスポーツ観戦。外国人観光客も惹きつける新たなスタイル！？

週に一度は赤ちゃんも一緒に入れる家族風呂。家族みんなで健康になろう。

広場のステージでスリッパ卓球大会。みんな足湯に入りながら熱戦を観戦中。

広場へ続く路地空間。足湯に縁側に様々な活動が顔を出している。

渓流をイメージした足湯。自分のお気に入りの場所を見つけよう。

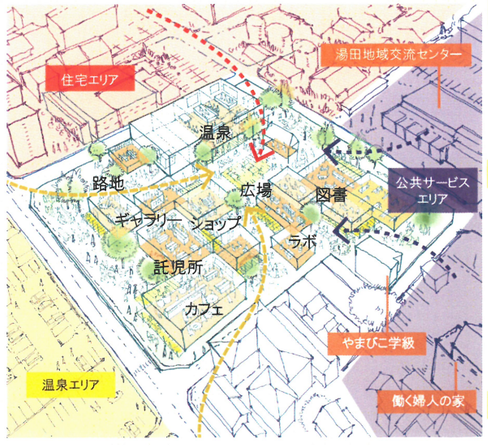
カフェと託児所に挟まれた中庭は、昼は園庭、夜はバーに変身する。

温泉をテーマに実験を行う温泉ラボ。商品開発や温泉の効能を研究する。

計画地域（近隣、自然条件）

整備予定地の特性

05. 街に寄り添い、共に成長する施設



本敷地は3つの異なるエリアと隣接しており、どこからでもアクセスでき、また、通り抜けもできる 計画とすることで、周辺地域と一体的に利用しやすい環境をつくります。

また施設全体を 小空間の連続 で構成することで、①近隣の住宅地のスケールを意識し、調和のとれた街並み を形成します。

②個別の機能や空間単位で 運営時間を切り替える など、必要に応じて フレキシブルに対応 が可能です。

③ 地場産の流通木材を活用した木造 で建設が可能です。地域の産業を積極的に取り込み、市民から親しまれる施設とし、地域経済にも貢献します。

④将来的な増改築やメンテナンス面において、現地の技術の活用 し対応することが可能です。

⑤建設コストを考慮した 段階的な建設 も可能です。

06. 温泉を利用した湯田ならではの環境配慮技術

この地域は夏暖かく冬寒い内陸性気候です。夏の日差しを遮る深い軒や冬の寒さから内部を守る高断熱など、建物としての基本的な環境性能を高いレベルで確保します。その上で温泉を利用した床暖房など、豊富な湯量を誇る温泉町の地の利を活かせる技術 の提案、検討を行い、一年を通して快適かつ賑わいを生み出す施設をつくります。